

グループホーム いこいの里中原

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域の行事への参加の機会をもっと増やし、気軽に来所していただける環境を整えていく。また地域の介護の相談所を目指し、適切な行政機関につなげる役割も担いたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		運営推進会議への参加者の拡大を目指す。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		運営推進会議への参加者の拡大を目指す。

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	消防団への参加や、戸畑祇園山笠への協賛を行っている。また地域の介護事業所、医療機関、地域包括支援センターと連携をとり地域の方へスムーズな介護サービスの提供が出来るよう努めている。		地域の行事への参加の機会をもっと増やし、気軽に来所していただける環境を整えていく。また地域の介護の相談所を目指し、適切な行政機関につなげる役割も担いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後、会議の場で確認し評価について話し合い、改善できる部分は改善した。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告事項では行事報告、事故報告、ひやりはっと報告を行い、協議事項では議題に対しての様々なご意見をいただき、サービスの向上に努めている。		運営推進会議へのご家族、地域の方等の参加者の拡大を目指す。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	戸畑区介護保険課、地域統括支援センターからは入居者の相談等を受けている。また、グループホーム協議会に所属し、組織を通じ北九州市介護保険課意見交換等の機会を設けている。		サービスの質の向上を目指す為に、介護保険収入だけに頼らない収益の構造を構築していく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	北九州市の弁護士会、「みると」、「らいと」、社会福祉協議会と連携をとり、相談があった場合は適切に対応が出来るよう努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、社員ミーティング、運営推進会議にて取り上げ防止に努めている。また、ほっ赤やあざが出来ていた場合、必ず記録に残し原因を確認するよう努めている。		身体的虐待だけではなく、言葉の虐待にも注意を払い、職員の言葉使いの確認を行う。

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際、十分な説明を行い契約書、重要事項説明書をお渡しし、理解を図っている。また入居された後でも利用者様やご家族などの疑問点、不安な部分には明確に説明し理解を図っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の不安を、外出などをして環境を変えて気分転換することで状態の安定に努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度ご家族へその月の利用者様の状況、金銭について記入した台帳のコピー、毎日の状況について送付している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議への参加の呼びかけを行い、会議の場で意見を言って頂けるようにしている。また来所された際には記録を見ていただきながら状況の説明を行い、介護への要望を聞くよう努めている。</p>		<p>運営推進会議へのご家族の参加の拡大を目指す。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見や提案を管理者へ伝え、管理者が管理者ミーティング等の場で運営者へ意見を報告している。また社員ミーティング時には必ず代表も参加し状況の把握を行っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様の介護状況の変化に応じて、必要な勤務時間帯の変更などを話し合い調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>影響を与えるであろう職員の移動がある場合は、入居者様お一人お一人に合わせた対応、説明を行っている。</p>		

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	面接においては男女雇用機会均等法を遵守し、適切な採用が出来るよう努めている。また定期的に自己評価を行い、面談を通し自己研鑽できるよう努めている。		生活できるしっかりとした給与が保障できるよう収益の構造を構築していく。
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	月に1回のグループホームミーティングや全事業所の集まる社員ミーティングにて人格尊重の為の教育を行っている。		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修の機会の確保や勤務後の研修を設け、同僚と共に学び成長することを目指している。また定期的に自己評価を行い、面談を通し自己研鑽できるよう努めている。		グループホーム協議会や近隣の病院等から様々な研修のお誘いがあり、出来るかぎり参加している
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会や地域の事業者連絡会に所属し、意見交換や情報交換を行っている。		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	慰安旅行などに行き、忘年会等を行っている。また管理者が事業所内で職員が悩みなどを相談できる環境が出来るよう努めている。		余裕のある介護職員の配置を行っていく。

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格、経験に関係なく積極的にランクアップ、昇給を行い向上心を持って働けるよう努めている。また一人一人がテーマを持って働けるよう自己評価、面談を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者様と1対1で話す機会を作り要望を受け入れ、不穏行動の軽減に努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に事業所で出来る事、出来ない事を、リスクをしっかりと説明している。入居後も入居者様の状況を把握していただけるよう情報の発信を行うとともに、認知症に対する理解を深めていただけるよう努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日頃から地域の医療機関、介護サービス事業者、行政と連携をとり、相談があった際は迅速かつ適切な対応が出来るよう努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前より入居者様本人の面談、ご家族、SW、CMとのカンファレンスを行い、入居時期、時間帯などを工夫している。また介護職員も情報をもとにしっかりと対応できるよう事前準備を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活援助や家事援助を残存能力に応じて行う事でお互いが支えあえる状況が出来るよう努めている。		

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	祭りや餅つき、旅行などの行事、また日頃の来所時情報提供を通じ、現状の入居者様を理解していただき、一緒に支えていく関係が作れるよう努めている。		家族のいる方は年に1度でも自宅に帰り、一緒に過ごせる時間を持てるようにしたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の方に認知症を理解を深めていただき、現状の入居者様を受け入れていただけるよう関係を築いている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所での買い物にお連れしたり、入居者様が覚えていた地名にドライブに行き馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		お一人ずつ生まれ育った場所へ里帰りをしていただくよう計画している。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様の性格、介護状態、認知症状況を考慮しながら、ユニットや外出グループを決定している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状や暑中見舞いを出している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様お一人お一人の意向を把握し、入居者様本位の検討を行っている。		チームでのケアを一層徹底していく。

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際に家族の方や以前に入居していた施設の方等からご本人の情報をできるだけ詳しく聞き、アセスメントに取り上げ日々の介護に反映させている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カンファレンスをこまめに行い、入居者様の状況の変化の把握に努めている。		職員の気付く能力を今以上向上させ、入居者様の細かい状況の変化に対応できるよう努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスにて職員から出たアイデア、ご家族の意向、医師の判断等、状況に合わせバランス良い介護計画を作成するよう努めている。		入居者様お一人お一人の状況について関係者がより同じ情報を得られるよう努める。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に囚われず、入居者様の状況の変化にあわせカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。		日々の業務の中で、職員間でのカンファレンスの時間が十分にとれるよう十分な人員配置を目指す。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に経過記録、ケアプラン実施計画表、アセスメントシート、の記入を行い介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人がグループホーム3事業所、介護付き有料老人ホームを運営しており、入居者様やご家族の意向による施設間の住み替えや、合同行事、日々の交流などを行い柔軟な支援を行っている。		

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議への参加や、専門学校生の実習先としての受け入れ、消防団への参加、警察の立ち寄り所などを行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	日頃より地域の他介護サービス事業所や医療機関、行政機関、地域包括支援センター等と連携をとり、入居者様からのサービス利用の要望があった場合は適切に対応できる環境を作っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	日頃より、「みると」や「らいと」、地域統括支援センターと連携をとり入居者様の要望があった場合は適切に対応している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診だけではなく、かかりつけ医と常に連携をとっており24時間の対応ができるようにしている。また入居者様の状況に合わせ適切な医療機関への紹介をいただいている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月定期的に受診しその都度職員が医師と相談し治療についての服薬相談を行っている。また必要に応じて家族にも付き添っていただき一緒に説明を受けるようにしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医院の看護師には入居者様の状況を把握していただいております。日常の健康管理や医療活用を支援していただいております。		

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時にも衣類の洗濯を施設が請け負い、お見舞いに行くたびに状況の説明を受けている。また早期退院に向け病院SWとも密に連絡を取り対応している。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時よりご家族に来るべき終末期についての方針を説明し、協力していただけるよう資料をお渡ししている。</p>		<p>ターミナルケアを行う為のかかりつけ医の協力、ご家族の協力と理解、十分な人員配置を整えていく。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>かかりつけ医の指導、協力を受け事業所の出来ること、出来ないことを明確にしチームとしての支援に取り組んでいる。</p>		<p>ターミナルケアを行う為のかかりつけ医の協力、ご家族の協力と理解、十分な人員配置を整えていく。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居者様本人の面談、ご家族、SW、CMとのカンファレンスを行い移動時期、移動時間などを工夫している。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いには十分注意し、お一人お一人の誇りやプライバシーを傷つけないようにしている。</p>		<p>パソコン内の徹底した情報管理や処分する記録の廃棄の仕方の徹底を行っている。</p>

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	アセスメントをしっかりと取り、認知能力、身体能力の残存機能に合わせた介護を行い、自分らしく生きるお手伝いができるよう努めている。		介護職員の入居者様一人一人の情報の把握をもっと深め、個別の介護が徹底できるようにしていく。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務形態はあるが、朝の朝礼時にフロアリーダーが入居者様の状況に合わせ優先順位を決め、臨機応変に人員配置、業務内容を決定している。		介護職員の配置をもっと十分に行う必要がある。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	常日頃より、衣類や髪型、航空内の整容を徹底している。また月1回の訪問理容や訪問のヘアメイクを実施しその方らしいおしゃれが出来るよう努めている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいただけるよう買い物や調理を入居者様と一緒にっており、食事、片付けも一緒に行っている。		定期的な外食な機会を増やしたり、より季節にあった食事が提供できるよう努める。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者様と毎日買い物に行き、嗜好品の購入を行っている。またお酒、たばこについても主治医、ご家族の同意の下、楽しんでいただいている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	お一人お一人の排泄表を作成し、気持ちよく排泄できるよう支援している。またかかりつけ医の協力のもと適切な排泄コントロールが出来るよう努めている。		

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日を決めているが、本人の状況にあわせ臨機応変に対応している。またゆっくりと入浴していただけるよう心がけている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣をアセスメントにとり、休息、安眠が出来るよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人お一人の状況にあわせ、毎日の散歩やドライブ、買物、調理、片付け等に役割や楽しみを持っていただけるよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にてお金は所持していただけないが、買物の支払いの際に可能な入居者の方は行っていただいている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前、午後の状況にあわせ、毎日、散歩やドライブ買物を行っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日や敬老の日などはスタッフと1対1で普段は行けない遠くの市場やデパートへ行ける様に支援している		

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望によって行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人の方が来所された際は、個室だけではなく、リビングで他の入居者様や職員と過ごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止マニュアルを作成し、身体拘束を行わない日々の生活に努めている。また安全確保の為にどうしても必要な際はご家族に同意を取り、迅速に解除できるよう努めている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望のある入居者が不穏行動を起こしている時間以外は玄関は常に開放している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。また職員間で声かけを行い、所在をはっきりするよう努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	介護のしやすさ、安全性を優先し物品の配置を決め、危険を防ぐ取り組みをしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成し安全に配慮している。また事故が起こった際は事故報告書を作成し、ご家族、介護保険課、運営推進会議への報告を行うとともに、ミーティングを開き再発防止を努めている。		知識だけではなく、事故が起こった際は職員が冷静に対応できるよう教育を行っていく。

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し目の届く場所に置き、職員の徹底を図っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1度避難訓練を実施している。又、その際に地域の方、消防署にも参加していただき指導を受けている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについてはその都度変化に応じてご家族に説明し、職員と対応策について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	お一人お一人の体調の変化や異変を発見次第記録に残し、申し送りを行っている。又、受診が必要な際はすぐに受診するように努めている。		かかりつけ医による在宅医療に関する勉強会を行っていく。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をすぐ手に取れる場所におき薬の内容把握に努めている。また処方変更があった際は申し送りノートに記入し、薬による状態変化の観察に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	3日の時点で便秘薬を服薬、さらに5日で服薬していただき一週間を越えた際はかかりつけ医に受診し、摘便処置を行っていただいている。また食事による便秘予防にも努めている。		

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後には毎回口腔ケアを行っている。又、義歯の方は歯磨きの都度義歯を外してもらい洗浄している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に食事を記録し、利用者の方お一人お一人の状態に応じて調理など材料の工夫をしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前には手荒い、外出後は必ず手洗い、消毒、うがいを徹底している。また使い捨て手袋を使用し塩素系消毒液による手摺、ドアノブの消毒を行っている。		職員の感染症に対する知識をより深められるよう努める。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材を取り入れている。又、調理用具などはハイターにて消毒、殺菌を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前スペースを利用し、体操やバーベキュー、流しそうめん等を行い近隣の人達に見えるようにしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に施設内は誰が利用しても、気持ちよく利用できるよう清潔に努めている。また季節に応じた飾り付けを行うようになっている。		

グループホーム いこいの里中原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた環境を活用できるようリビングスペースの机やソファの配置を行っている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に、入居後も居室内に個人の使い慣れた物や写真、家具等を持ち込んでいただく様になっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、ホール、トイレに等全室に24時間自動的に換気出来る機器を設置している。又、毎日全居室の窓を開け換気している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置や段差の解消、玄関周りの椅子の配置などを工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様が使用する物はいつも同じ場所にあるようにしている。また個人の物は名前を大きく書き、認識しやすいようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前スペースを利用し、体操やバーベキュー、流しそうめん等を行っている。またベランダ等に洗濯物を干す際は入居者様と一緒にいるなどスペースの活用に努めている。		

グループホーム いこいの里中原

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム いこいの里中原

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いこいの里中原は3階建ての2ユニットのため夜勤者を3名配置しており、入居者様の状況に合わせた部屋分けや対応が出来るようになっていきます。またゲーム等のレクレーションよりも、外出や家事への入居者様の参加に力を入れて取り組んでおり、施設内で一人ひとりが役割をもって生活していただけることを目指しています。